

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者 80歳代 男性 (要介護5)
利用期間 : 訪問リハビリ2025年9月～現在
 通所リハビリ2025年10月～現在

現病: 誤嚥性肺炎

既往: 右被殻脳出血

経過: R7年1月、A病院に救急搬送。右被殻脳出血と診断を受ける。同院満床のため同年1月1月～2月までB病院に入院。その後リハビリ目的のため石巻健育会病院に転院。胃瘻造設のためA病院に6月～転院、再度石巻健育会病院に戻る。同年6月深夜に誤嚥性肺炎を発症、A病院呼吸器科に入院、加療の後に在宅復帰の運びとなり現在に至る。

内 容

この方は現在、石巻市あけぼのの集合住宅に奥さんと長女さんとの3人で暮らしております。元々のご出身は同市の門脇でいらっしゃいます。奥さんをご結婚後、石巻市南浜町にご自宅を構えられましたが東日本大震災の津波により失われ、奥さんと共に妹さん宅や仮設住宅などを転々と移り、現在の集合住宅へ移られました。以前はスキー準1級指導員の資格を有しており、奥さんとはスキーやドライブ、花火見物に大曲や長岡に出かけるなどアクティブな面もあったそうです。入院中は移動や日常生活動作は全介助、胃ろうの造設がされており、口での摂取は水ゼリーやトロミのついた水分が主でした。また痰の喀出も不十分で、自力で喀出できることもありますが、口腔内に痰が残っていることがあるため、必要に応じて吸引が必要な状態でした。退院後の主介助者は奥さんで初めての介護で不安とのことでしたが、ご本人の意向に添い、自費で吸引機をレンタルしその操作を行うなど献身的でいらっしゃいます。同居されたい長女さんは仕事のため日中不在となることもありますが、介護の補助をされていらっしゃいます。ご本人よりリハビリを続けたい、自宅での生活を続けたいとの希望があり、しおんでの訪問リハビリ・通所リハビリの提供の運びとなりました。リハビリ開始当初は左麻痺の影響により、リクライニング車いすでの座位姿勢は安定しておらず、左側へ姿勢が崩れておりクッション等での姿勢矯正を要する状態でした。リハビリの方針として「座位の安定性向上」「移乗の介助量軽減」を目的に座位保持練習や長下肢装具を使用しての立位・歩行練習を行っております。ご本人から自分で普通車椅子を自走したいとの希望があり、それ以来担当PTと車椅子自操の練習を開始しました。開始当初は安定した自走が難しく、進路が左側へ徐々に逸れていく様子が見られました。それでもひたむきに努力を重ねられ、現在は最初期と比べて真っ直ぐ走らせられるようになってきております。今後、操作が習熟すればま

ずはしおんの広い環境を自由に移動できることでスタッフやご利用者との交流機会の増加、ご自宅であればご家族の介助負担の軽減が期待されます。リハビリによる心身機能の向上を感じ、ご本人自らが目標を掲げ、それに向けて努力をされるご様子に立ち会えたことは大変貴重な経験となりました。今回の動画は途中経過ではありますが、ご自身で目標を掲げ努力される輝かしいご様子に対し目標達成に向けた今後への期待も込めてご紹介させていただきたく、ここにキラキラ介護賞への推薦をさせていただきます。